様式１

港区立赤坂中学校

**令和元年度　授業改善推進プラン**

１　区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

|  |  |
| --- | --- |
| 国語 | 今年度の区学力調査の結果、１学年は全体的に区の平均より低く、すべての領域での授業改善の必要がある。特に、話すこと聞くことの領域における授業を工夫することが課題である。２学年と３学年は区の平均をやや上回っている状況である。２学年は他の領域に比べ、言語についての知識・理解・技能が、少し低くなっており、言語の学習が課題である。３学年は書くことの学習をさらに充実させることが課題である。生徒たちは真剣に授業に取り組み、さまざまな分野で意欲的に取り組んでいる。より質の高い授業が望まれる。 |
| 社会 | 今年度の区学力調査の結果は、全学年を通じて思わしくない。特に１学年は目標値よりもかなり下回り、領域で見てもほとんどの区分で不十分であり、今後の対応改善が望まれる。小学校で学んできた学習内容の定着が図られていない面も考えられる。今後スムースに中学校への学習とつなげていきたい。２学年では目標値にほぼ近い形で全体的に改善がみられるが、３学年では再び目標値に対し下回っている。特に「日本の諸地域」「身近な地域の調査」など地理的分野での課題がみられたので、今後の改善点としたい。 |
| 数学 | 今年度の学力調査の結果、1学年は全体的に目標値を下回っている。特に数量関係の理解が課題である。2学年、3学年は区の平均を上回っていた。2学年は記述の解答が平均を下回っており、また資料の活用の領域の正答率も他の領域と比べ低いため、図やグラフ化から情報を読み取り表現することが課題である。3学年は活用が目標値を下回っており、観点では見方や考え方が他の観点と比較して低いため、多面的な考え方で問題を解くことが課題である。 |
| 理科 | 区学力調査の結果、1年生はすべての領域・観点ともに目標値を大きく下回り、これからの改善が必要である。特に、科学的な思考・表現には大きな差がみられるため、重点的に指導を行う必要がある。2年生では、ほとんどの領域・観点で目標値を上回り、区の平均を大きく上回る領域も多い。その中で地球の領域のみ目標値を下回っているため、今後の指導を改善していく。3年生では、エネルギー・地球領域が低くなっている。授業から時間の開いている領域に課題がみられるため、復習を取り入れていく必要がある。 |
| 外国語 | ２年生は全項目にわたって全国平均を１０ポイント以上上回っている。特にライティングについては区平均をも上回っている。３年生も全項目において全国平均を７～１１点上回っている。特にライティングと文法・語彙については区平均をも上回っている。３年生は昨年度より向上し、授業の質と生徒の努力が実を結んでいると言える。 |

２　各教科の具体的な授業改善

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 国語 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・話すこと、聞くこと（１学年）  ・語彙力（２学年）  ・書くこと（３学年） | ・まずは話したい、聞きたいと思う学習の場面を設定することが課題である。話し手・聞き手の交流の場面を実現し、話し合い活動を通して話すこと聞くことの力を育成する。  ・読書指導、言語単元の設定を多くする。  ・論理的文章を書くための構成力育成に力を入れていく。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 社会 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・社会に対する関心を高め、諸資料を通して多面的、多角的に考察することができる力の育成 | ・社会的事象への関心をもつために、時事問題に関心をもつ。授業の開始時に、発表をする時間を設け、それに対するコメントもする。  ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、地図帳や歴史資料  　集を使用しながら、自分から主体的に調べる姿勢を育てていく。  ・ＩＣＴ機器を使用しながら、生きた新しい情報をつねに確認できるようにしていく。 |
| 数学 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・基礎的基本的な能力の育成  ・知識を基に、多面的に事象を捉え考え表現する力の育成 | ・既習の内容が関連する単元では授業冒頭に復習を行う。  ・自分で考えた解答の説明に加え、良い点などを説明させることで解答の理解を深めさせる。  ・問題を様々な方法で解答させ異なる見方や考え方を理解する機会を設ける。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 理科 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・知識を基に科学的に考え、表現する力の育成  ・作図などから、現象と結び付けて考える力の育成 | ・実験結果などの現象を説明させる機会を増やし、発表などを重ねることで「自分で考え、表現する力」を伸ばす。また、知識を基に科学的な現象を確認する実験を計画させる機会を設ける。  ・実験・観察を行うことが難しい分野における作図において、現象と作図の結び付きを考えさせる機会を設ける。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 音楽 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・豊かな表現力の育成  ・曲に込められた作者の意図を感じ取り、それを自己表現できる力の育成 | ・表現の幅を広げるため、ワークシートを適宜活用する。  それにより、お互いの考えへの理解が増し、自己表現力を高めることに役立たせる。  ・合唱では、協働活動にあたってリーダーを中心として目標をもって練習に取り組ませる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 美術 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・造形的な見方、感じ方を深め、創造的に表現する能力の育成  ・豊かに発想し、構想を練って主体的に表現する能力の育成 | ・作品鑑賞の機会を増やし、作者の心情への理解を深め、社会や生活との美術の関わりについて興味をもたせる。  ・プリントやアイデアスケッチを用いて「知識・技能」「発想・構想の能力」の育成を図る。自らの制作意図を考えたり、グループでの話し合いや説明文を作成したりすることで、主題を明確にし、表現につなげていく。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 保健体育 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培い、運動の楽しさや喜びを味わうことができる態度の育成 | ・運動量を増やすとともに、タブレットや学習カードを活用し、生徒同士の学び合いの時間を充実させる。  ・集団的活動において、道筋を立てて練習を考え、また、改善の方法を話し合うなどコミュニケーション能力を育成し、互いに楽しさや喜びを味あわせる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 技術・家庭 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力の育成 | ・（技術科）生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解させる。  ・（家庭科）苦手意識を持つ生徒に対し、作品を完成させることで楽しさを体験させ自信をつけていくよう取り組んでいく。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 外国語（英語・国際） | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・読むこと（２年）、聞くこと（３年）の力の育成 | ・２年生は「読みトレ５０」を使って日常的にリーディングに慣らしていく。３年生はリスニングの問題形式に慣れるようにする。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 道徳 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・自己を見つめ、その在り方や生き方など自己理解を深めさせ、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。 | ・各教科の学習との双方向性をもち、幅広い学習・より多面的な学習で人間関係力や表現力を伸ばす。  ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 特別活動 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成 | ・望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。  ・人間としての生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養うことを目的に学級活動、生徒会活動、学校行事に関する内容を実施する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 総合的な学習の時間 | 育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| ・自ら課題を設定し、学び・考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力の育成 | ・移動教室や修学旅行等の宿泊行事、職場訪問や職場体験等のキャリヤ教育を通して、調べ学習・体験活動・レポートの作成や発表等を行う機会をもつ。  ・全教員で連携して一人一人の生徒の課題に対する支援をしていく。 |